

分科会ⅡのⅠ

# 特別活動の充実

令和6年5月2日（木）

9:30～10:40

第2研修室

担当:県教育庁学校教育課

指導主事 太田 英治

(内 容)

- |   |             |
|---|-------------|
| 1 自己紹介及び分科会の進め方について(10分)  | 9:30～ 9:40  |
| 2 報告(25分)<br>令和5年度小学校及び中学校各教科等教育課程連絡協議会について<br>(小学校特別活動、中学校特別活動)  | 9:40～10:05  |
| 3 情報提供(15分)<br>・令和5年度 学校教育指導の重点に関する現状と課題について<br>・令和6年度「学校教育指導の方針と重点」について<br>・中学校・高等学校特別活動指導資料について(R5.5月)<br>・小学校特別活動映像資料 児童会活動・クラブ活動編(R6.3月)<br>・令和6年度中学校教育課程研修会の研究主題 | 10:05～10:20 |
| 4 協議・報告(20分)<br>・特別活動における課題について(各地区の現状)   | 10:20～10:40 |

令和5年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会報告書  
【 小学校 特別活動 】

**【報告書のポイント】**

これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力を確実に育成するために、

- ・ ウェルビーイングの要素に着目した特別活動の指導を行う。

**=身近な学級生活から学校生活、地域、社会と展開すること**

- ・ 小学校内及び小・中学校間で、「思い」と「ねらい」と「指導方法」を共有する。

**=義務教育9年間の系統性を意識した円滑な指導の接続を行っていくこと**

所属名 上北教育事務所 教育課  
職名・氏名 指導主事 丸井 大輔

**行政説明**

文部科学省初等中等教育局 視学官 安部 恭子 氏

**要点**

- 1 これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力
- 2 特別活動において育成を目指す資質・能力
- 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

# 1 これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

3

# 1 これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

## 学習指導要領 前文

(前略) これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童(生徒)が、**自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる。  
(後略)

要は、

**一人一人の子供が自分の**

**よさや可能性を認識して、**

**多様な人々と協働し自ら**

**人生を切り拓くことがで**

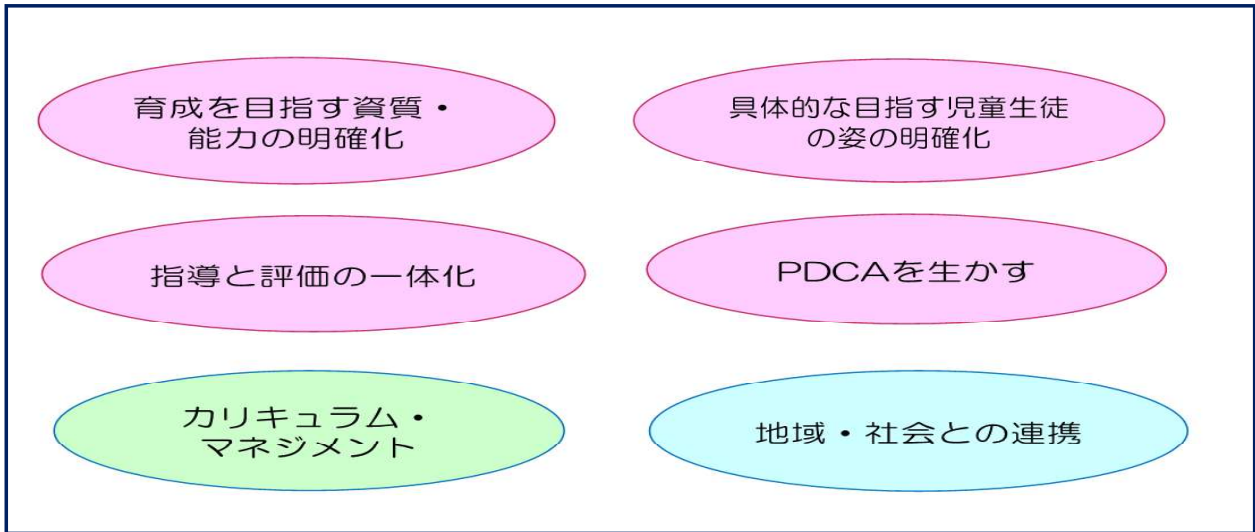
**きるようにすることが求**

**められる。**

4

# Ⅰ これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

## そのためには、特別活動で



5

これらを意識した計画・指導・評価を進めていくことが大切

# Ⅰ これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

**教育振興基本計画**

今後の社会の方向性  
「自立」「協働」「創造」の3つの理念の実現に向けた生涯学習社会を構築

**創造**  
自立・協働を通じて更なる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会

生涯にわたる「可能性」と

第3期 **教育振興基本計画**

文部科学省

●教育基本法に基づき、**政府が策定する教育に関する総合計画**

●今後5年間の国の**教育政策全体の方向性や目標、施策**などを定めるもの。

6

## 第4期教育振興基本計画でのキーワードは、「ウェルビーイングの向上」

日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

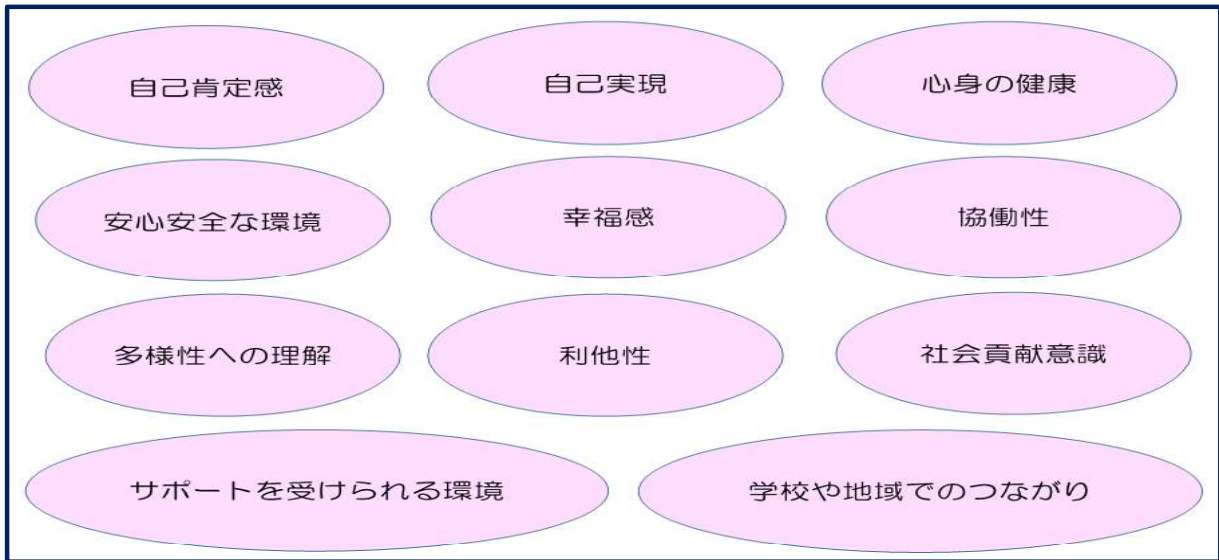
日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められます。



# Ⅰ これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

## 教育に関するウェルビーイングの要素



まさに特別活動の視点や目的と合致する内容

7

# Ⅰ これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

## 具体的な姿として

- 自分にはよいところがあると思う
- 将来の夢や目標を持っている
- 授業の内容がよく分かる
- 勉強は好きと思う
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになる
- 友人関係に満足している
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい
- 人が困っているときは進んで助けている
- 学級をよくするために互いの意見のよさを生かして解決方法を決める
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
- 先生は自分のいいところを認めてくれる
- 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる

8

# 1 これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

## 今後5年間の教育政策の目標と基本施策（一部抜粋）

### 教育政策の目標

6. 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成

### 基本施策（例）

- 子供の意見表明 ○主権者教育の推進 ○消費者教育の推進
- 持続可能な開発のための教育（ESD）の推進 ○男女共同参画教育の推進
- 環境教育の推進 ○災害復興教育の推進

### 指標（例）

- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合
- ・学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答える児童生徒の割合

現状課題は、  
指標（例）にある  
児童生徒の育成

9

# 1 これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力

学級生活をよりよくするために学級会で話し合っている。

互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。

地域や社会をよくするために何かしてみたい。

自信をもってこのように回答できる子供たちに育てる。

**小学校6年間を通しての学級活動の積み重ねが不可欠。**  
(その上で、児童会活動、中学校3年間の学級活動、生徒会活動等の話し合いの積み重ねを通して育てる。)

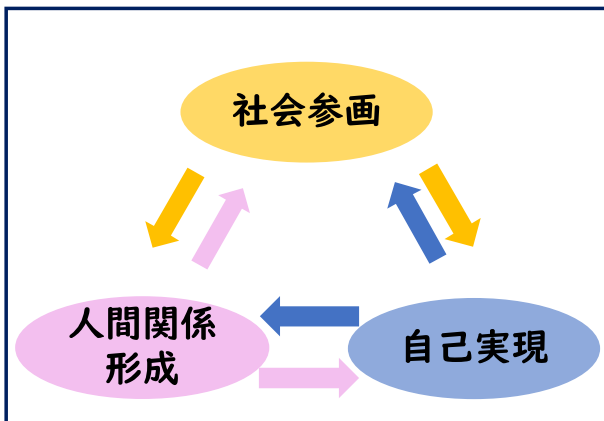
10

## 2 特別活動において育成を目指す資質・能力

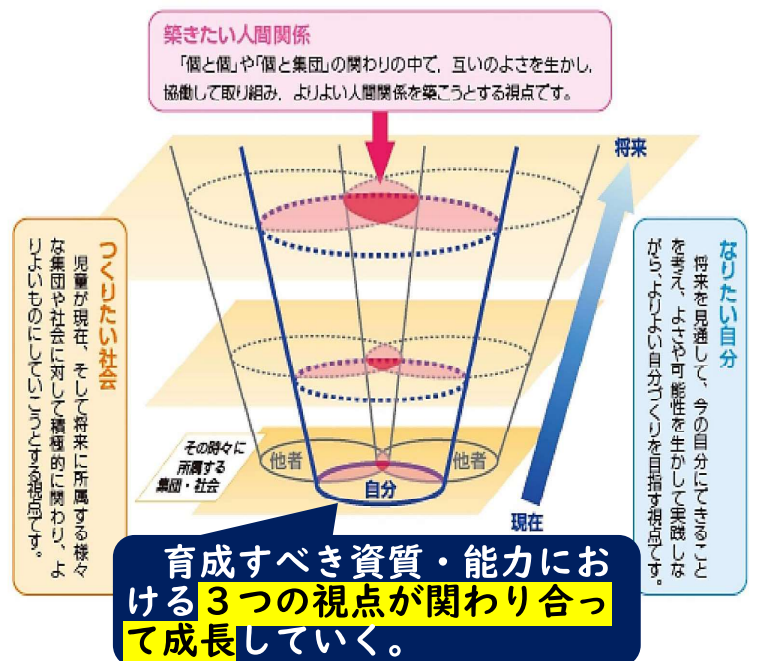
11

## 2 特別活動において育成を目指す資質・能力

### 特別活動において育成すべき 資質・能力の重要な視点



12



## 2 特別活動において育成を目指す資質・能力

### 人間関係 形成

違いを認め合い、みんなと  
共に生きていく力を育てます。

「人間関係を築きましょうね。」

ではなく…

子供たちが、「人間関係を築きたいな。」  
と思えるような関わり合いを学級内、学校  
内で増やしながらか育てていく。

13

## 2 特別活動において育成を目指す資質・能力

### 社会参画

よりよい集団や社会をつく  
ろうとする力を育てます。

「みんなでよい社会を作るんだよ。」

ではなく…

まずは、子供たちが  
「よりよい学級生活や学校生活をつくっ  
ていきたいな。」と思えるようにする。

14

## 2 特別活動において育成を目指す資質・能力

### 自己実現

なりたい自分に向けて  
がんばる力を育てます。

「自分らしい生き方を見つけてみましょう。」

ではなく…

子供たちが、なりたい自分に向けて**前向きに**  
**なったり**、(少しずつでも)**ねばり強く努力する**  
**力**を伸ばすように支援する。

15

## 2 特別活動において育成を目指す資質・能力

### 【特別活動における「深い学び」】

課題の設定から振り返りまでの一連の過程を  
「実践」と捉え、**基本的な学習過程を繰り返す中で**、  
各教科等の特質に応じた見方・考え方を**総合的に働**  
**かせ**、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及  
び自己の問題の解決のために活用する。

現状課題は、

**「繰り返し」では**

**なく「単発」に**

なっていること。

16

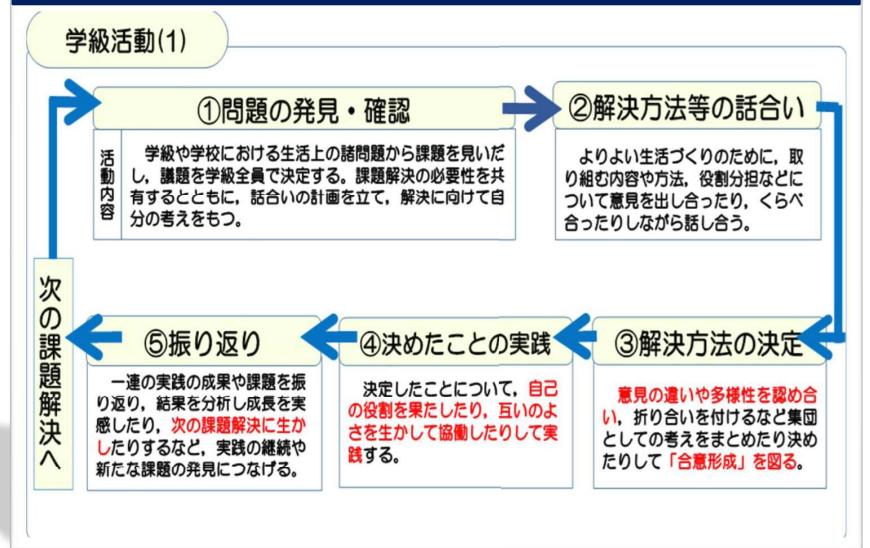
## 2 特別活動において育成を目指す資質・能力

### 【特別活動における「深い学び」】

課題の設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、**基本的な学習過程を繰り返す**中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を**総合的に働かせ**、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用する。

### 「基本的な学習過程」とは

#### 学級活動「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」の学習過程(例)



17

## 2 特別活動において育成を目指す資質・能力

### 【特別活動における「深い学び」】

課題の設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、**基本的な学習過程を繰り返す**中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を**総合的に働かせ**、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用する。

### 「学習過程を繰り返す」とは

→ **学びをつなげる**ということ。  
(例) 成果だけでなく課題が残った場合でも次の課題解決につなげながら展開していく。

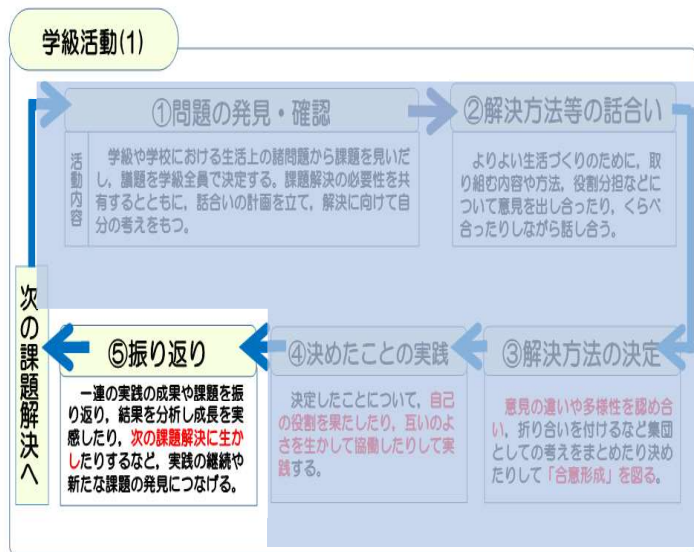
そのためには

それぞれの学習過程で

**「どんな力を育てるのか」を常に明確にしておく。**

18

## 2 特別活動において育成を目指す資質・能力



### 教師の役割として

事前から事後までを見通し、**振り返りを次の課題解決に生かせるように指導する。**

NG例…振り返りを感想記入と発表で終わってしまうこと。  
→その活動が「単発」で終わってしまい経験を次に生かそうとする意識が育たない。

## 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

### 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

#### 【学習指導要領内容構成の改善】

〔学級活動〕の内容の構成については、小・中・高等学校を通して育成することを目指す資質・能力の観点から、次のように系統性が明確になるよう整理した。

(小・中学校学習指導要領解説特別活動編より)

要は、  
中学校、高等学校の内容は、小学校段階からの積み重ねを前提として内容が構成されている。

21

### 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

中学校において、与えられた課題ではなく学級生活における課題を自分たちで見いだして解決に向けて話し合う活動に、小学校の経験を生かして取り組むよう(1)の内容を重視する視点から、(2)(3)の項目を整理した。

(小・中学校学習指導要領解説特別活動編より)

小学校の現状課題は、小学校の経験（6年間の学級活動での話し合い）の積み重ねと中学校への接続。

22

### 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

中学校において、与えられた課題ではなく学級生活における課題を自分たちで見  
いだして解決に向けて話し合う活動に、**小  
学校の経験**を生かして取り組むよう(1)の  
内容を重視する視点から、(2)(3)の項目  
を整理した。

(小・中学校学習指導要領解説特別活動編より)

#### 「小学校の経験」とは

みんなで、学級や学校の生活の充実・向上のために、  
**個々の意見をつないで**（意見発表、討論ではない）、  
**「みんなの意見」として決めていくことを繰り返した経験。**

23

### 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

#### 個々の意見をつないで

(例)



毎日やるのでは〇〇する意味がうすれるし担当の人が大変になると思います。

だったら、毎日じゃなくて、期間を決めてやるのはどうでしょうか。



今の意見に合わせて、担当の役割を交代制にすればどうでしょう。

いろいろ試しながら方法を変えてもいいかも。

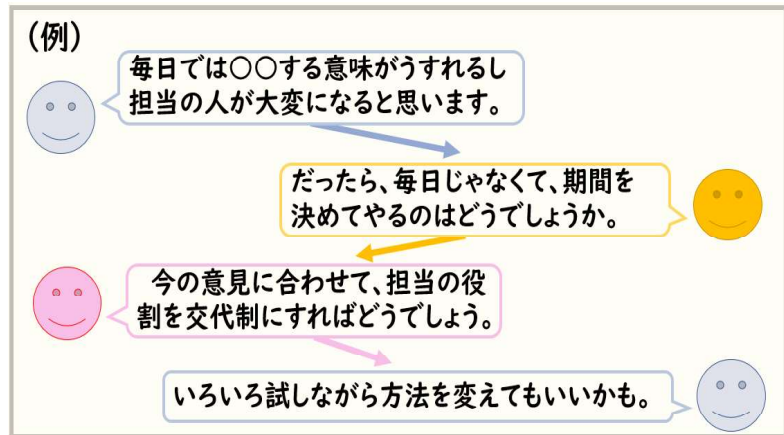


24

### 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

#### 個々の意見をつないで

反論や否定で  
終わるのではなく  
互いの意見を  
生かすやりとり



**子供たちが意見をつないで、心をつないでいけるように話し合わせ、継続できるように引き継いでいく。**

25

### 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

#### 児童生徒による自発的、自主的な活動の充実

よりよい学級や学校の生活を築くための問題を発見したり、**集団としての意見をまとめたりするなどの話し合い活動や、話し合いで決まったことを友達と協力して実践したりする活動**

多様な集団活動を通して、互いのよさを見付け合い、違いを尊重し合い、仲よくしたり、信頼し合ったりする関係を築く

現状課題は、**学校全体での積み重ね**

**学校内、小中学校間で学級活動の学習過程を共有することで、進級後も、進学後も、系統的に資質・能力が育成される。**

26

### 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

「決めていくことを繰り返した経験」を得させるために

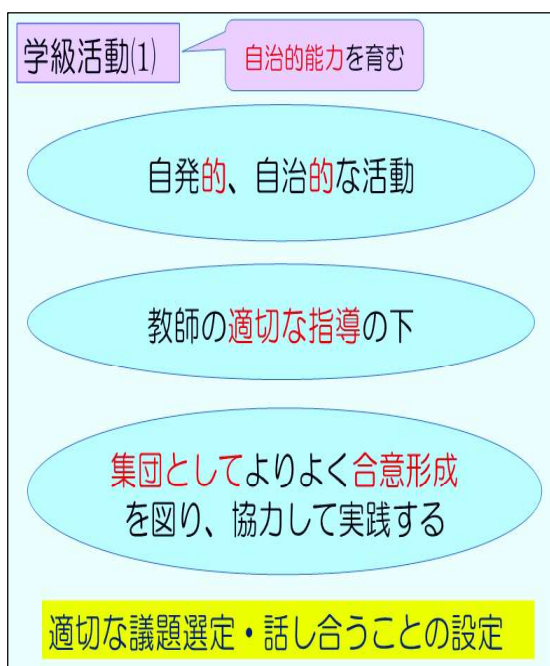
学校や先生方の3つの共有事項

- ① 「こういう子を育てたい。」という思い
- ② 「今は…だから、こういう力をつけさせる。」というねらい
- ③ 「そのために、こうする(こうしてきた)。という指導方法

これらを全校で、小中学校間で方針、実態、手立てを確実に共有し指導に生かす。

27

### 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続



現状課題として、教師自身の学級活動での介入のタイミングや合意形成のイメージがあいまい

話し合い場面の動画などを教師と児童生徒が一緒に見ながら、よりよい話し合いイメージを学級全体で共有することも効果的な手立てとなる。

28

### 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

#### 話し合い場面の参考動画「小学校特別活動映像資料 学級活動編」

1 議題案を選ぶ

集まった議題案から、みんなが決めてよいことと先生が決めることを区別しましょう

実際の話合いの様子を視聴することで、学級活動(1)の話合いの進め方や教師の支援の仕方を学ぶ

映像資料は、国立教育政策研究所のHPと文部科学省のYouTubeチャンネルから視聴できます。解説パンフレットやワークシートは、国研HPからダウンロードできます。

掲載ページ QRコード



現学年の話合い場面を動画に記録しておき、進級後、進学後の担任との引継ぎに活用することも円滑な接続に有効。

29

#### 令和5年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会報告書 【 小学校 特別活動 】

- 1 これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力
- 2 特別活動において育成を目指す資質・能力
- 3 児童生徒の資質・能力の育成のための小中の円滑な接続

御清聴・御精読ありがとうございました

所属名 上北教育事務所 教育課  
職名・氏名 指導主事 丸井 大輔

30

# 令和5年度小学校及び中学校各教科等担当指導主事連絡協議会報告書 【 中学校 特別活動 】

所属名 学校教育課  
職名・氏名 指導主事 太田 英治

## 【報告書のポイント】

- ・小中の接続については、義務教育9年間で子供たちに必要な資質・能力をどのように育むかを見据えた小・中学校間で連携した取組の充実が一層求められる。
- ・「キャリア・パスポート」の活用については、学校として何を指すのかやどのように活用するかが大切である。

1

## 行政説明

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 佐藤 学

## 要点

- ・ 特別活動で育成を目指す資質・能力の小中の円滑な接続
- ・ 児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材（「キャリア・パスポート」）の活用に関する学級活動（3）の指導の工夫

2

特別活動で育成を目指す資質・能力の小中の円滑な接続

国立教育政策研究所刊行指導資料活用のお願い

特別活動は日本の学校教育特有のもので、他の国には見られない文化です。

特別活動は「2つの活動」と「学校行事」で構成されています。

学習指導要領では特別活動における視点を右の3つに整理しています。変化の激しいこれからの社会の中で生き抜いていく生徒だからこそ、この3つの視点を大事にしていきたいものです。



学習指導要領における学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の指導で留意すべきポイント

学級活動・ホームルーム活動

- **合意形成を主とする内容(1)**「学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画」を重視する必要がある。
- **意思決定を主とする内容(3)**「一人一人のキャリア形成と自己実現」は学校全体のキャリア教育の要の時間である。「キャリア・パスポート」の活用が有効である。

生徒による話し合い活動や担任による指導が毎週確保できるようにしなければなりません。

❓ 教師主体の学級活動・ホームルーム活動になっていませんか。

生徒会活動

- 生徒が自発的、自治的な活動を実感できるような指導の工夫が求められる。
- ボランティア活動などを通じて、社会に参画する力の育成が求められている。
- 生徒会役員選挙など主権者教育の実践の場となる。

生徒会とは学校の全生徒をもって組織するものであり、一部の生徒会役員を指すものではありません。

❓ 生徒会の一員であることを全生徒が自覚できていますか。

学校行事

- 職場体験活動・就業体験活動やボランティア活動などの豊かな体験活動の充実が求められる。
- **内容(3)**「健康安全・体育的行事」においては特に事件や事故、災害等から身を守ることが明示されている。

体験や学びがその場限りにならないよう振り返りの活動を大切にするとともに、生徒や教師の過度な負担にならないように配慮しなければなりません。

❓ 「活動あって学びなし」になっていませんか。

「問題の発見・確認」、「解決方法等の話し合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」この活動のプロセスを生徒が実感できるような指導を大事にしていきましょう。また、実践して終わりではなく、振り返りを次の活動や課題解決に生かすことが大切です。

中学校・高等学校 「特別活動指導資料」



令和5年刊行

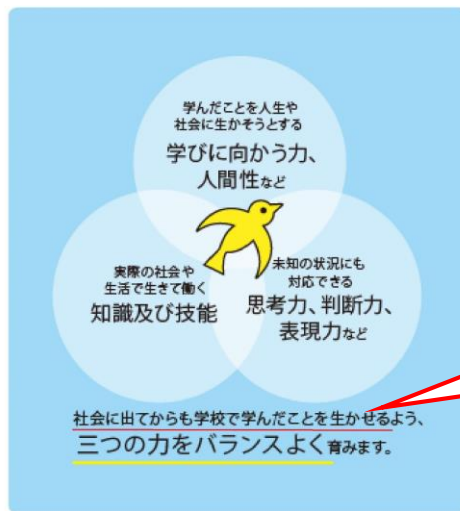
学校行事は感動して終わりではなく、振り返りをしなければなりません。そのためには、どんな目標を立てたのかが、なければいけない。

特別活動で育成を目指す資質・能力の小中の円滑な接続

学習指導要領と育成することを目指す資質・能力

中学校学習指導要領解説 特別活動編 第1章 総説 2(2) ① 目標の改善

今回の改訂では、各教科等の学びを通して育成することを目指す資質・能力を三つの柱により明確にしつつ、それらを育むに当たり、生徒(児童)がどのような学びの過程を経験することが求められるか、さらには、そうした学びの過程において、質の高い深い学びを実現する観点から、特別活動の特質に応じた物事を捉える視点や考え方(見方・考え方)を働かせることが求められることを示している。



社会に出てからも機能する資質・能力

## 国立教育政策研究所刊行指導資料活用をお願い

### ◎人間関係形成

特別活動は、多様な集団活動で人間関係を形成することで、コミュニケーション能力が向上するようにしたり、リーダーシップなどを学ぶことができるようにしたりする。そこで教師は、生徒相互が関係性を創ることや、集団の凝集性に着目しながら指導助言する。

### ◎社会参画

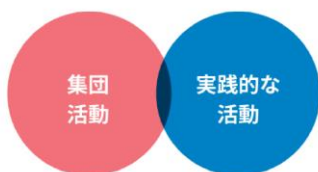
特別活動は、学級・ホームルームや学校をよりよくしていくための活動、ボランティア活動などで実社会に関わる活動などを通して、集団や社会の形成者としての資質・能力を育む。そこで教師は生徒の自治的な能力が発揮されるように指導助言する。

### ◎自己実現

特別活動は、生徒が集団の中で役割を担いながら個性を発揮し、相互に認め合うことなどを通して、自分らしい生き方につながるようにするとともに、自己有用感や自己肯定感を高める。そこで教師は個々の生徒に寄り添いながら、生徒が自信を持って生活できるように指導助言する。



## 国立教育政策研究所刊行指導資料活用をお願い



特別活動の特質は大きく左の2つがあり、その成果を中央教育審議会答申(平成28年12月)では以下のように示している。

- 生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動として機能してきた。
- 生活集団、学習集団として機能するための基盤が創られている。さらに、生徒指導の機能、ガイダンスの機能が、それらを強固なものにすることに寄与している。
- 集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化の醸成へとつながっている。

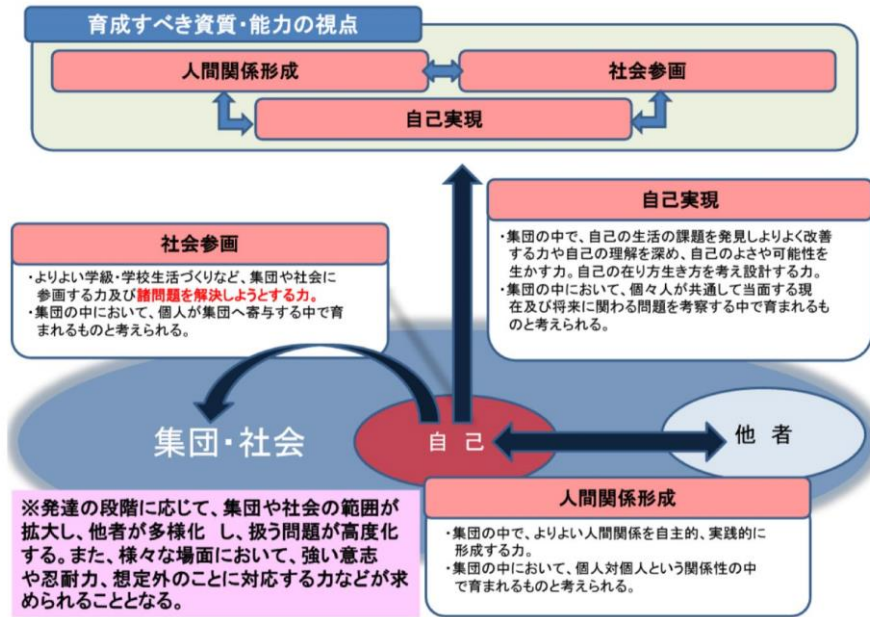
### ◎集団活動（集団の中で学ぶ）

特別活動は、学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事のいずれも集団活動であり、同学年や異学年の集団活動を通して、人間関係を形成する。そこで教師は生徒個々の成長と、集団の発達の両面を意識して指導助言する。

### ◎実践的な活動（なすことによって学ぶ）

特別活動は、生徒が主体的に参加・参画する活動であり、自治的な活動や実践的な活動を通して「なすことによって学ぶ」という理念を体現する。そこで教師は生徒に任せて待つ姿勢で、かつ放任ではない関わりを通して指導助言する。

## 学習指導要領と育成することを目指す資質・能力



7

## 特別活動の目標と3つの視点

中学校学習指導要領解説 特別活動編 第2章1節 特別活動の目標

### 人間関係形成

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) **多様な他者と協働する** 様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、**集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成する**とともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

下線、色付けは引用者による

8

## 特別活動の目標と3つの視点

中学校学習指導要領解説 特別活動編 第2章1節 特別活動の目標

### 社会参画

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

(2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

(3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

下線、色付けは引用者による

9

## 特別活動の目標と3つの視点

中学校学習指導要領解説 特別活動編 第2章1節 特別活動の目標

### 自己実現

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

(2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

(3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

下線、色付けは引用者による

10

## 特別活動で育成を目指す資質・能力の小中の円滑な接続

「確実に」という強い表現を使っている。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」  
(平成28年12月21日) <抄>

○ 小学校・中学校の接続については、義務教育9年間を通じて、子供たちに必要な資質・能力を確実に育むことを目指し、同一中学校区内の小・中学校間の連携の取組の充実が求められる。

同一中学校区内で、特別活動における小・中学校間の連携がとても重要である。

(中略)

○ 新しい教育課程においては、「義務教育段階を終える段階で身に付けておくべき力は何か」、「高等学校卒業の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から、各学校段階で育成を目指す資質・能力を相互につないでいくことが求められる。義務教育を行う最後の教育機関としての役割を担う中学校においては、小学校6年間の学びを中学校での学びにつなげ、義務教育段階で身に付けておくべき資質・能力をしっかりと育成した上で、高等学校の学びにつなげていく視点を一層重視していくことが求められる。

小学校がどのようなプロセスを経て、資質・能力をどこまで高めてきたのか、どんなことをしてきたのかも含めて、中学校が理解していないといけない。

11

## 特別活動で育成を目指す資質・能力の小中の円滑な接続

中学校学習指導要領解説 特別活動編 第1章 総説 2(2) ② 内容構成の改善

[学級活動]の内容の構成については、小・中・高等学校を通して育成することを目指す資質・能力の観点から、次のように系統性が明確になるよう整理した。

小学校に学級活動(3)が新設されたことにより、(3)が小中高の12年間繋がるようになった。

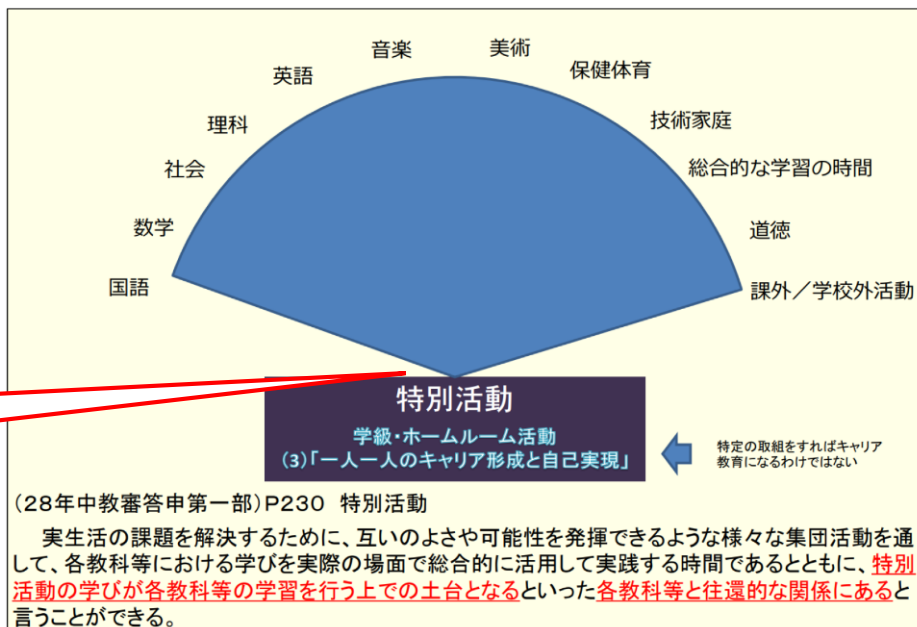
・ 小学校の学級活動に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」を設け、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校等のつながりが明確になるようにした。

・ 中学校において、与えられた課題ではなく学級生活における課題を自分たちで見いだして解決に向けて話し合う活動に、小学校の経験を生かして取り組むよう(1)の内容を重視する視点から、(2)、(3)の項目を整理した。

12

特別活動で育成を目指す資質・能力の小中の円滑な接続

キャリア教育の要としての特別活動



特別活動で育成を目指す資質・能力の小中の円滑な接続

進路を選択するときの悩み (職業を意識した時期別)

Benesse教育研究開発センター「平成17年度 経済産業省委託調査 進路選択に関する振り返り調査－大学生を対象として－」

	職業について考えているグループ			まだ考えていない
	小・中学校時代	高校時代	大学入学後	
自分の適性 (向き不向き) がわからない	43.8	57.5	59.6	67.6
	13.7 ptの差	2.1 ptの差	8.0 ptの差	
自分の就きたい職業がわからない	24.0	46.4	65.2	80.2
自分のすすみたい専門分野がわからない	24.0	42.4	55.7	66.7

職業を意識した時期が、発達の段階が進むほど、自分の適性がわからないと答えた割合が増えている。

## 学習指導要領と育成することを目指す資質・能力

中学校学習指導要領解説 特別活動編 第3章第1節2(3)ウ 主体的な進路の選択と将来設計

目指すべき自己の将来像を暫定的に描くには，生き方や進路に関する情報を収集して活用するとともに，これまでや現在の自分を振り返り，自己の興味・関心や適性を把握することが必要である。

そのためには，進路計画の実現を目指して，生徒が卒業後の進路選択の問題を，自分自身の課題として受け止め，自ら解決するために何を知り，どのように考え，いかに行動すべきかなどについて検討することが大切である。自らの興味・関心や適性などを生かすには，特定の職業や生き方に限定されないように，選択の幅を広げることが大切であり，将来の目標となる夢や希望とのつながりを見通すことも重要である。

小中の接続をスムーズにするためのキーワード

「必要感」

→特別活動を通して、どんなことを達成したいのか、教師側の思いがどこにあるか。

選択の幅を広げるためには、どのような資質・能力を身につけていくか。

児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材（「キャリア・パスポート」）の活用に関する学級活動（3）の指導の工夫

### キャリア教育の要としての特別活動

中学校学習指導要領 第1章第4 生徒の発達の支援 1(3)

(3) 生徒が，学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら，社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう，特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて，キャリア教育の充実を図ること。その中で，生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう，学校の教育活動全体を通じ，組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

青色の下線部のところが中高にしかない部分

中学校学習指導要領 第5章特別活動 第2 3(2)

(2) 2の(3)の指導に当たっては，学校，家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て，学んだことを振り返りながら，新たな学習や生活への意欲につなげたり，将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際，生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

キャリア・パスポート

児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材（「キャリア・パスポート」）の活用に関する学級活動（3）の指導の工夫

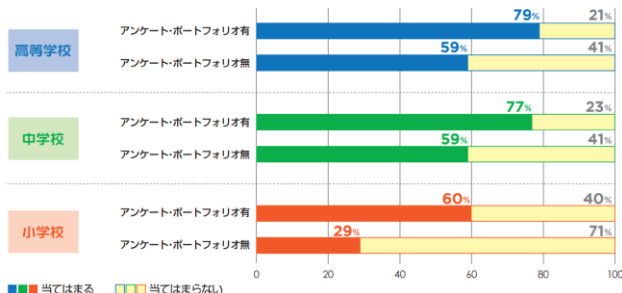
活動を記録し蓄積する教材等を活用すること

キャリア教育リーフレットシリーズ  
キャリア・パスポート 特別編1

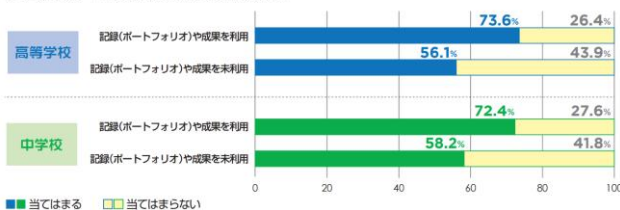
児童・生徒は自己の生き方や進路を真剣に考えている

児童・生徒は自己の生き方や進路を真剣に考えている

学校調査 「全体計画内に盛り込んでいる事項」



担任調査 「生徒理解のための個人資料」



ポートフォリオは、自らの将来やキャリアを考える上で、かなり有効である

17

児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材（「キャリア・パスポート」）の活用に関する学級活動（3）の指導の工夫

活動を記録し蓄積する教材等を活用することの三つの意義

中学校学習指導要領解説 特別活動編 第3章1節 4(2)学習や生活の見通しを立て、振り返る教材の活用

一つ目は、中学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になることである。例えば、各教科等における学習や特別活動において学んだこと、体験したことを振り返り、気付いたことや考えたことなどを適時蓄積し、それらを学級活動においてまとめたり、つなぎ合わせたりする活動を行うことにより、目標をもって自律的に生活できるようになったり、各教科等を学ぶ意義についての自覚を深めたり、学ぶ意欲が高まったりするなど、各教科等の学びと特別活動における学びが往還し、教科等の枠を超えて、それぞれの学習が自己のキャリア形成につながっていくことが期待される。

二つ目は、小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めることに資するということである。ポートフォリオ的な教材等を活用して、小学校、中学校、高等学校の各段階における学習や生活を振り返って蓄積していくことにより、発達の段階に応じた系統的なキャリア教育を充実させることになると考えられる。例えば都道府県市区町村あるいは中学校区内において、連続した取組が可能となるよう教材等の工夫や活用方法を共有したりすることは大変有効である。

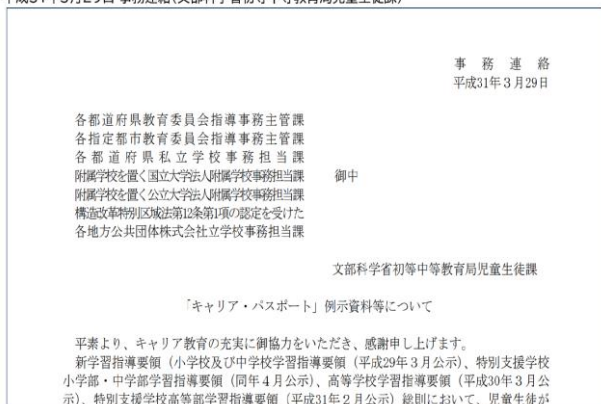
三つ目は、生徒にとっては自己理解を深めるためのものとなり、教師にとっては生徒理解を深めるためのものとなることである。学習や生活の見通しをもち、振り返ることを積み重ねることにより、生徒は、年間を通して、あるいは入学してから現在に至るまで、どのように成長してきたかを把握することができ、特に、気付いたことや考えたことを書き留めるだけでなく、それを基に、教師との対話をしたり、生徒同士の話し合いを行ったりすることを通して、自分自身のよき、興味・関心など、多面的・多角的に自己理解を深めることになる。また、教師にとっては、一人一人の生徒の様々な面に気づき、生徒理解を深めていくことになる。

18

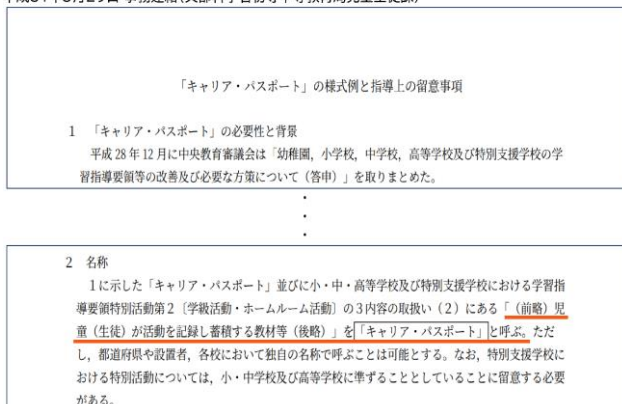
## 児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材（「キャリア・パスポート」）の活用に関する学級活動（3）の指導の工夫

### 「キャリア・パスポート」例示資料等について

平成31年3月29日 事務連絡(文部科学省初等中等教育局児童生徒課)



平成31年3月29日 事務連絡(文部科学省初等中等教育局児童生徒課)



- ・学習指導要領上は「キャリア・パスポート」という用語は記載されていない。
- ・上記の事務連絡において、児童生徒が活動を記録し蓄積する教材を「キャリア・パスポート」と呼ぶと定義した。
- ・正式な表記は「**キャリア・パスポート**」である。

19

## 児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材（「キャリア・パスポート」）の活用に関する学級活動（3）の指導の工夫

### 「キャリア・パスポート」の内容

平成31年3月29日 事務連絡(文部科学省初等中等教育局児童生徒課)

- (1) **児童生徒自らが記録**し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見直し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする。
- (2) **学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む**内容とする。
- (3) 学年、校種を越えて持ち上ることができるものとする。
- (4) **大人**(家族や教師、地域住民等)が**対話的に関わる**ことができるものとする。
- (5) **詳しい説明がなくても児童生徒が記述できる**ものとする。
- (6) 学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合にはその**内容及び実施時間数にふさわしいものとする**。

20

## 島根県浜田市立第一中学校の保護者依頼文書

キャリア教育リーフレットシリーズ  
キャリア・パスポート 特別編10

令和4年4月18日

保護者の皆さま

浜田市立第一中学校校長

キャリア・パスポートについて（お知らせとお願い）

陽春の候 保護者の皆様には、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおり今年度の取組を行いたいと考えています。先日の学活では個人の年間目標を設定しました。期末懇談や通信等とおして学校での様子を発信していきますので、ご家庭でも話題に取り上げ、お子さんの成長を感じていただければと考えています。

年間の取組について（予定）

- 4月 年間目標設定（各学年の「目指す姿」を踏まえ、自分自身の具体的な目標を設定します。）
- 7月 1学期の振り返り（保護者コメント欄があります。記入して提出をお願いします。）
- 9月 体育祭の目標設定と振り返り
- 11月 合唱コンクールの目標設定と振り返り
- 12月 2学期の振り返り（保護者コメント欄があります。記入して提出をお願いします。）
- 3月 1年のまとめ ※これ以外にも各学年の取組に応じて目標設定や振り返りを行います。

キャリア・パスポートファイルに入れて、次の学年あるいは進学先等へつなぎます。

このような文書があると、**保護者との共通理解**ができるとともに、**教員にとってもキャリア・パスポートの活用に対する意識付けに繋がっている**

21

## 「キャリア・パスポート」の内容

平成31年3月29日 事務連絡（文部科学省初等中等教育局児童生徒課）

(7)カスタマイズする際には、保護者や地域などの多様な意見も参考にすること。

(8)通常の学級に在籍する発達障害を含む障害のある児童生徒については、**児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて指導すること**。また、障害のある児童生徒の将来の進路については、幅の広い選択の可能性があることから、指導者が障害者雇用を含めた障害のある人の就労について理解するとともに、必要に応じて、労働部局や福祉部局と連携して取り組むこと。

(9)**特別支援学校においては、個別の教育支援計画や個別の指導計画等により「キャリア・パスポート」の目的に迫ることができると考えられる場合は、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や適切な内容とする**こと。

22

## 「キャリア・パスポート」に関するQ&Aについて(令和4年3月改訂)

令和4年3月 文部科学省初等中等教育局児童生徒課

**問4 特別支援学校及び特別支援学級では、「キャリア・パスポート」の作成に際して、どのような点に配慮すればよいでしょうか。**

(答)

1. 特別支援学校及び特別支援学級においても、小・中・高等学校と同様、学習指導要領に従い、「キャリア・パスポート」の活用に取り組んでいただく必要がありますが、例えば、児童生徒の障害の状態や特性等により、児童生徒自らが活動を記録することが困難な場合などにおいては、「キャリア・パスポート」の目的に迫る観点から、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や適切な内容を 個別の教育支援計画や個別の指導計画に記載することをもって「キャリア・パスポート」の活用に代えることも可能としています。

2. したがって個別の教育支援計画や個別の指導計画が作成されていることのみをもって、「キャリア・パスポート」の活用に代えるということではなく、あくまでも、その内容が「キャリア・パスポート」の目的に沿っているかどうかに留意いただくことが重要となります。

23

## 「キャリア・パスポート」指導上の留意点と管理

平成31年3月29日 事務連絡(文部科学省初等中等教育局児童生徒課)

教育活動全体または学校外、家庭や地域の学びも含めて、「キャリア・パスポート」に記載されるという考え。

学級活動(3)で行う場合には、(3)アイウの目標をおさえた上で、その内容に即したものとなるようにする。

「キャリア・パスポート」は学習評価ではなく学習活動であることをふまえる。

(1)キャリア教育は学校教育活動全体で取り組むことを前提に、「キャリア・パスポート」やその基礎資料となるものの記録や蓄積が、学級活動・ホームルーム活動に偏らないように留意すること。

(2)学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、学級活動・ホームルーム活動の目標や内容に即したものとなるようにすること。

(3)「キャリア・パスポート」は、学習活動であることを踏まえ、日常の活動記録やワークシートなどの教材と同様に指導上の配慮を行うこと。

24

## 「キャリア・パスポート」指導上の留意点と管理

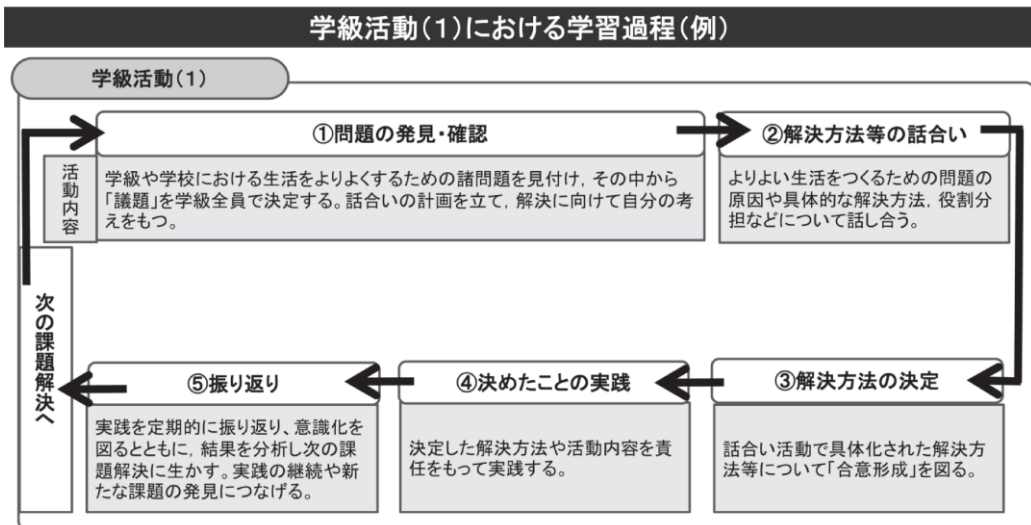
平成31年3月29日 事務連絡(文部科学省初等中等教育局児童生徒課)

- (4) 「キャリア・パスポート」を用いて、**大人**(家族や教師, 地域住民等)が**対話的に関わる**こと。
- (5) 個人情報を含むことが想定されるため「キャリア・パスポート」の**管理は, 原則, 学校で行う**ものとする。
- (6) 学年, 校種を越えて**引き継ぎ指導に活用**すること。
- (7) **学年間の引き継ぎは, 原則, 教師間で行う**こと。
- (8) **校種間の引き継ぎは, 原則, 児童生徒を通じて行う**こと。
- (9) 装丁や表紙等についても, 設置者において用意すること。その際には, 一定の統一性が保たれるよう工夫すること。

## 学級活動(1)における学習過程(例)

中学校学習指導要領解説 特別活動編 第1章 総説 2(2) ③ 内容の改善・充実

学習の過程として、**集団としての合意形成**を行う



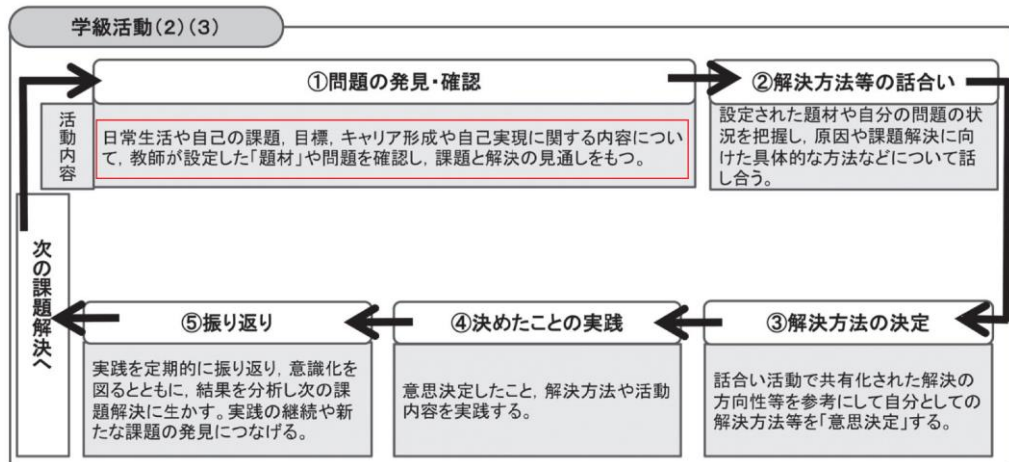
## 学級活動(2)(3)における学習過程(例)

中学校学習指導要領解説 特別活動編 第1章 総説 2(2) ③ 内容の改善・充実

学習の過程として、一人一人の意思決定を行う

「キャリア・パスポート」を活用する学級活動(3)

### 学級活動(2)(3)における学習過程(例)



①において、教師が設定した「題材」を確認すること。

27

## 学級活動(3)において育成を目指す資質・能力(例)

中学校学習指導要領解説 特別活動編 第3章第1節 2(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

○ 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けるようにする。

○ 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くことができるようにする。

○ 将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとする態度を養う。

## 学級活動(3)アにおける具体的な活動の工夫

中学校学習指導要領解説 特別活動編

第3章第1節 2(3)ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

具体的な活動の工夫としては、充実した人生と学習、学ぶことや働くことの楽しさと価値、学ぶことと職業などについての題材を設定し、保護者や卒業生など自分の身の回りの人、地域の職業人などの体験談などを取り入れながら、自分なりの考えをまとめ、発表したり、互いに話し合ったりすることなどが考えられる。

また、学習意欲と学習習慣、自ら学ぶ意義や方法などについて題材を設定するとともに、小学校から現在までのキャリア教育に関わる諸活動について、学びの過程を記述し振り返ることができるポートフォリオの作成と活用を通して、自身の成長や変容を自己評価したり、将来の社会生活や職業生活を展望したりする活動が求められる。学校図書館等を活用して学習を振り返り、自主的な学習を深め、多様な情報を収集して進路選択や自己実現につなぐ場としての意義や役割に気付く、積極的に活用する態度を養うことも大切である。

・「キャリア・パスポート」は作成して終わりではなく、活用をどうするかが大切。

・学校として何を目指していくのかと、どのように活用していくのかとは切り離せない問題。

### 3 特別活動の充実

(指導主事・太田 英治)

#### 1 学校教育指導の重点に関する現状と課題について

(1) 自主的な態度を育てる学級活動・ホームルーム活動の工夫 [ 指導項目 ア ]	
<p>◇<b>県内の現状と課題</b></p> <p>小・中学校ともに、話し合い活動での「合意形成」及び「意思決定」に向け、<u>話し合い活動の充実に向けた指導が行われている</u>。特に、<u>I C Tの積極的な活用により、児童生徒の意見を可視化し、課題を自分事として捉えて話し合い活動に取り組めるような工夫が見られた</u>。</p> <p>課題としては、合意形成や意思決定したことについて、粘り強く実践できるよう、<u>活動を振り返る場の設定やI C Tをより有効に活用する工夫、小学校での話し合い活動の経験や身に付いた資質・能力を中学校に円滑に引き継ぐことが挙げられる</u>。</p> <p>◇<b>対 策</b></p> <p>学級ごとの<u>指導計画を作成し、事前・事後指導の時間を確保</u>することで、「実践して終わり」の状態にならないよう、<u>振り返りを次の活動や課題解決に生かすことが求められる</u>。</p> <p>また、特別活動で育成を目指す資質・能力の小中の円滑な接続を実現するために、<u>中学校区における小中連携の在り方に特別活動の視点を加えるなど、9年間の義務教育で身に付けておくべき資質・能力の育成を目指すことが必要である</u>。</p>	
各教育事務所の報告書から見られる主な現状と課題	
東 青	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つかむ」「見つける」「さぐる」「決める」の学習過程を意識した話し合い活動が行われている。(小)</li> <li>・I C Tを考えを整理するためのツールとして活用したり、<u>アンケートを実施して現状を把握したりしている</u>。(青森市)</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>現行の学習指導要領に沿った学級活動(1)、(2)・(3)の目標、内容や学習過程の違い、各活動の指導上の留意事項等について、共通理解を図る必要がある</u>。</li> <li>・<u>生徒や学級の実態に即した適切な課題を設定して学級の課題を解決していく話し合い活動の場を確保する</u>。(中)</li> <li>・<u>学級活動において合意形成や意思決定して決めたことについて、粘り強く実践できるよう、一連の活動を振り返って成果や課題を確認する場の設定をする</u>。</li> <li>・<u>話し合い活動の事前・事後指導を丁寧に行う</u>。</li> <li>・I C Tを有効に活用した話し合い活動を実施する。(青森市)</li> </ul>
西 北	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動では、<u>児童の司会グループによる進行により、話し合い活動が活発に行われている</u>。(小)</li> <li>・<u>生徒の司会による話し合いが行われているが、形骸化しており、実質的には教師主導の話し合い活動となっている</u>。<u>学級活動(2)(3)の意思決定の場面がない授業も散見される</u>。(中)</li> <li>・<u>学びのない授業(高校調べのみ等)が散見される</u>。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>国立教育政策研究所のリーフレットの周知を図ること</u>。(中)</li> <li>・<u>前年度よりI C Tの活用が減っている</u>。</li> </ul>
中 南	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>司会の輪番制、国語科と関連した指導、シンキングツール等により話し合い活動の充実に取り組んでいる</u>。(小)</li> <li>・<u>短学活の活用等、全校体制で話し合い活動の充実に取り組んでいる</u>。(中)</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>各学年で取り上げる内容の重点化や内容間の関連・統合を図るなどして、全学年において全ての内容を取り扱うことができるよう、指導計画の見直しを図る必要がある</u>。</li> </ul>

上 北	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活上の諸問題の解決に向けた<u>議題の設定及び組織づくりが積極的</u>に行われている。</li> <li>・学校や地域の実態に応じて、他教科とも関連させるよう<u>学校行事が工夫</u>されている。(小)</li> <li>・話し合い活動での「合意形成」及び「意思決定」に向け、<u>多様な話し合いの形態の工夫</u>やICTの積極的活用が進められている。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育環境等が多様化する<u>児童生徒の意欲を高めさせる工夫</u>が必要である。</li> <li>・<u>実態を把握した上での議題の設定</u>がなされていない。(中)</li> <li>・教師のファシリテート力や問い返し、揺さぶりが必要である。(小)</li> <li>・<u>実践及び振り返りを充実</u>させることが必要である。</li> <li>・内容に合わせた<u>合意形成と意思決定の方法</u>の工夫が必要である。</li> </ul>
下 北	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級での生活上の課題や実態を踏まえながら、<u>児童生徒が自分事として捉えられるような議題</u>が設定されている。</li> <li>・Google Form等のICTを活用し、<u>児童生徒の意見を可視化</u>することにより、課題を自分事として捉え、<u>主体的に話し合い活動</u>に取り組めるような工夫が見られた。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部教師主導の授業が見られ、<u>話し合う必要性を児童生徒が実感できないまま</u>、話し合い活動が行われている場合がある。</li> <li>・学習課題を自分事として捉えさせるための<u>事前準備が不足</u>しており、思うような話し合い活動が展開できない授業がある。</li> </ul>
三 八	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>進んで話し合いに取り組めるような工夫</u>をしながら、楽しく豊かな学級・学校の生活づくりを目指した取組が行われている。(小)</li> <li>・<u>共感的な人間関係や温かい学級づくり</u>を目指した取組、<u>進路に関わる取組</u>が行われている。(中)</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>学級活動(1)、(2)・(3)</u>それぞれの活動内容などをしっかりと理解した上での取組が行われる必要がある。</li> <li>・小学校での話し合い活動の経験と身に付いた資質・能力が中学校の学級活動(1)に生かされる必要がある。</li> </ul>
<p>[特色ある事例] [東青] ・課題の把握のためにICTを活用したアンケート実施(青森市立篠田小他)</p>		

## (2) 自治的な意識を高める児童会活動・生徒会活動の工夫 [ 指導項目 イ ]

### ◇県内の現状と課題

学校生活における諸問題の解決に向けた異年齢集団による話し合い活動が行われており、児童生徒の自治的な意識を高められるよう指導を行っている。

また、児童会・生徒会テーマを基に、学校生活の諸問題等の解決のために、学級や委員会、総会などを通して合意形成を図り、特色ある実践を行っている学校が増えている。

課題としては、児童生徒が学校生活の諸問題に自ら気づき、解決できるよう、自発的、自治的な活動の指導、支援に一層努める必要がある。また、児童生徒数の減少に伴い、児童生徒の負担が重くなっている。

### ◇対策

児童生徒に活動の意義やねらいを十分に理解させ、発想や創意工夫を引き出させるように主体的に取り組ませることが大切である。また、活動に当たり、どのような力を育てるのか明確にし、全教員が共通理解して組織的な指導体制を構築する必要がある。また、児童会や生徒会の組織の見直しを含む、活動の在り方を検討することが求められる。

各教育事務所の報告書から見られる主な現状と課題

東 青	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍で制限されていた活動が徐々に復活している。</li> <li>・ <u>I C Tを有効に活用した話し合い活動</u>を実施している。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>ボランティア活動については学校や地域からの募集であり、児童会・生徒会が主体的に学校の課題を解決するためのボランティア活動を設定する必要がある。</u>（青森市）</li> <li>・ <u>児童生徒の主体性は大事だが、教師の適切な指導の下、児童生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるように配慮する。</u></li> </ul>
西 北	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縦割り班などの<u>異年齢集団</u>による実践が多く見られる。（小）</li> <li>・ 生徒会役員を中心とした委員会活動によって、<u>自治的な活動</u>を計画的に行っている。（中）</li> <li>・ 児童生徒数の減少を要因として、<u>委員会活動の精選</u>が図られている。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校では<u>高学年児童の負担</u>、中学校では<u>全生徒の負担</u>が大きくなっている学校が増えている。</li> </ul>
中 南	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>全校のスローガンや年間テーマを決め、学級活動や学校行事との関連を図りながら、活発な活動が行われている。</u>また、<u>集会等での発表場面の設定や話し合い活動の充実</u>にも取り組んでいる。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>児童生徒が学校生活の諸問題に自ら気づき、解決できるよう、自発的、自治的な活動の指導、支援に一層努める必要がある。</u></li> </ul>
上 北	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各校の規模や地域の実情に即した取組が行われている。</li> <li>・ 生徒会活動と連動させた<u>学校生活づくり</u>に取り組んでいる。</li> <li>・ 学校生活における諸問題解決に向けた、<u>異年齢集団による話し合い活動</u>が行われている。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒が児童会活動・生徒会活動の必要性をあまり感じていない。</li> </ul>
下 北	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>地域の行事や生徒指導等と連動させた取組</u>を行っている。</li> <li>・ 縦割り班活動等の<u>異年齢による集団活動</u>や<u>他校種間の連携</u>により、<u>リーダーシップとフォロワーシップの育成</u>を図っている。</li> <li>・ 生徒が主体的に課題解決に取り組めるよう、<u>外部講師を招いての意識付け</u>や、<u>教師が裏方に徹して支援</u>するなど指導の工夫が見られる。（中）</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の活動に、<u>教師が介入しすぎている</u>場合もあり、児童生徒の自治的な活動となっていない活動もある。</li> </ul>
三 八	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童会（生徒会）テーマ等の決定や学校生活の諸問題等の解決のために、<u>学級や委員会、総会などを通して合意形成を図り</u>、特色ある実践が多くみられる。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>児童生徒が主体となる活動</u>にするため、児童生徒の発想や計画を生かした自発的、自治的な活動が行われる必要がある。</li> </ul>

〔特色ある事例〕

〔東青〕

- ・ 小中が合同で行うボランティア活動（青森市立甲田中学区・油川中学区など）
- ・ 子どもの祭典ボランティア活動（青森市立浪岡中）
- ・ 目指す学校を達成するための課題解決を目指す集会活動（青森市立油川中）

〔西北〕

- ・児童会・生徒会活動の一部を小中合同で実施。(中泊町立小泊小、小泊中)

[上北]

- ・縦割り班での地域の神社清掃、祭り参加(十和田市立四和小)
- ・ハートフルタイムで異年齢交流(六戸町立大曲小)
- ・祇園祭の山車の協力隊(野辺地町立野辺地中)
- ・雪かきボランティア(横浜町立横浜中)

[下北]

- ・保育園、小学校、中学校、特別支援学校によるスポーツ行事や清掃活動を実施(むつ市立奥内小、近川中)
- ・「笑顔あふれる学校づくり」を目標として、学校生活の向上に向けて、生徒会による生徒会規則の改定等への取組(むつ市立田名部中)

(3) 児童の個性の伸長を図り、触れ合いを深めるクラブ活動の工夫 [ 指導項目 ウ ]  
(小学校のみ)

◇県内の現状と課題

地域の人材を講師として活用したり、地域の伝統文化を学んだりするなど、異学年交流の場として、地域の実情に応じた活動が見られる。

また、児童と担当教師での話し合いなどを通して、児童の興味・関心を生かした活動計画を作成している。

課題としては、小規模校ほど、児童の興味・関心に対応したクラブ編成ができないことが多いことや、地域と連携・協働する場合に地域と育てたい資質・能力を共有する必要性が挙げられる。

◇対策

児童数の減少、地域人材や外部講師の確保、指導に当たる教師の体制、設備などの学校の実態などを考慮して、指導計画を作成する必要がある。また、地域と連携する際には、育てたい資質・能力を地域と共有することが大切である。

各教育事務所の報告書から見られる主な現状と課題

東 青	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と担当教師で事前に打合せを行い、<u>児童主体の活動</u>を実施している。</li> <li>・<u>地域人材や地域の特色を生かしたクラブ活動</u>が実施されている。</li> <li>・異年齢の児童で構成され、楽しく活動できている。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>教師の人数が限られている</u>が、児童の興味・関心を生かしたクラブ編成に努めている。</li> <li>・クラブ活動の<u>成果発表の場を設定</u>する。</li> </ul>
西 北	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>地域の人材を活用</u>し、クラブ活動を行っている学校が多い。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携・協働する際は、活動を通して、<u>育てたい資質・能力を地域と共有</u>する必要がある。</li> </ul>
中 南	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年交流や縦割り活動の場として位置付け、<u>高学年児童がリーダーシップ</u>を発揮できるよう工夫している。</li> <li>・<u>外部講師を活用</u>したり、<u>地域の伝統文化</u>を取り入れたりするなど、特色ある取組がみられる。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>小規模校を中心として</u>、児童数や教員数の不足により<u>活動が限定</u>されてきているため、施設・設備等を考慮し、児童の興味・関心に応じたクラブの設置に努める必要がある。</li> </ul>

上 北	現状	・ <u>地域の人材</u> をゲストティーチャーとして招聘するなど、校内外の資源を積極的に活用しながらクラブ活動を運営している。
	課題	・ 多様化する活動内容に応じた <u>場所や指導者の確保</u> が難しい。
下 北	現状	・ 異年齢と交流できる場としてクラブ活動を位置付けている。 ・ 児童にアンケート調査等を実施し、 <u>児童の興味や関心を生かした活動計画や編成</u> をしている。 ・ 各種行事、 <u>地域人材の活用</u> や児童が興味を持ちやすい内容を設定し、活動をより充実させるような内容を計画している。
	課題	・ 特になし
三 八	現状	・ 児童の興味・関心を生かした取組や、 <u>地域人材及び施設、伝統芸能</u> など <u>地域の教育力・特性を生かした取組</u> が多くみられる。
	課題	・ 児童自らの手で具体的な活動計画を作成し活動できるよう、 <u>適切な指導、支援</u> に努める必要がある。
<p>[特色ある事例]</p> <p>[東青]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の施設を利用したプラネタリウムクラブ（青森市立堤小）</li> <li>・ コンピュータカレッジから講師を迎え活動するプログラミングクラブ（青森市立橋本小）</li> </ul> <p>[上北]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域人材を活用した専門家によるクラブ活動（三沢市立上久保小）</li> <li>・ クラブ設立の企画、交渉、運営等をゼロから児童会及び高学年児童に行わせる取組（六ヶ所村立南小）</li> </ul>		

#### （４） 集団への所属感や連帯感を深める学校行事の工夫 [ 指導項目 エ ]

##### ◇ 県内の現状と課題

学校行事においては、異年齢集団の取組や、小・中学校及び地域や保護者との連携による取組、事前・事後指導に工夫をこらしている学校が多い。また、生徒会を中心として、学級や学年の団結、全校の連帯感を深める取組を行う学校が多い。

課題としては、児童生徒が主体的に考えて実践できるよう、各行事の教育的価値やねらいを明確にし、全教師で共通理解を図りながら、自主的、実践的な態度を育てる活動に取り組みませつつ、事前・事後学習を計画的に実施することが挙げられる。

##### ◇ 対 策

個々の行事の教育的価値を検討し精選するとともに、学級や学校、地域の実態、児童生徒の発達の段階などを考慮して教育活動全体を見通した調和のとれた学校行事の指導計画を作成する。また、事前・事後の指導を計画的に行い、全教職員による協力体制を確立して、組織的・系統的に指導に当たる必要がある。

##### 各教育事務所の報告書から見られる主な現状と課題

東 青	現状	・ 新型コロナウイルス感染症の影響により制限されていた活動が、徐々に復活している。 ・ <u>児童会や生徒会が主体</u> となって企画・運営する行事の工夫が見られる。
	課題	・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、希薄となった <u>地域との連携の回復</u> に努める。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、行動制限されていた <u>児童生徒の経験不足</u>

		<p>を解消する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の基本的な<u>学習過程</u>（「行事の意義の理解」「計画や目標についての話し合い」「体験的な活動の実践」「振り返り」）を<u>意識</u>し、全教職員の共通理解のもと、組織的に指導に当たる。</li> </ul>
西 北	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後指導を計画的に行い、<u>振り返り</u>を大切にしながら、活動の価値や次の活動への意欲付けを行っている。</li> <li>・<u>地域や保護者との触れ合い</u>を密にした学校行事に取り組む学校が多く見られる。縦割り班を中心に<u>異年齢集団</u>での活動を充実させている学校が多い。（小）</li> <li>・生徒会を中心とした運営により、<u>学級や学年の団結、全校の連帯感を深める</u>取組が行われている。（中）</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>単発的な活動</u>で終わらず、ねらいを明確にしなが、<u>系統的な教育活動</u>にしていく必要がある。</li> </ul>
中 南	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校や小規模な中学校では、<u>異年齢集団</u>による交流が積極的に取り入れられている。大規模な中学校では、<u>学級の団結力の向上</u>を目指した行事が行われている。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒に行事の意義やねらいを理解させたり、短時間で効果的な振り返りの機会を設定したりする<u>指導時間の確保や評価の工夫</u>が必要である。</li> </ul>
上 北	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した学校行事の設定や家庭への依頼、成果の周知を行う中で、<u>学校、家庭、地域が一体となって集団生活や学校行事の教育効果を高められる</u>よう各校において工夫した取組がなされている。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の<u>行事に対する意欲や連帯感等の二極化</u>が見られる。集団への所属感を高めさせるためにも、<u>意識・意欲が極端に低い児童生徒への働きかけの工夫</u>が求められる。</li> </ul>
下 北	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動を通して、<u>リーダーシップとフォロワーシップ</u>の育成を図っている。</li> <li>・児童（生徒）総会、運動会（体育祭）、学習発表会（文化祭）において、教師が身に付けさせたい資質・能力を共通理解し、それぞれの活動を通して、<u>児童生徒に意義や必要となることを理解させ、主体的に取り組めるように指導</u>している。</li> <li>・生徒会活動との関連を図り、<u>生徒による行事の運営</u>が実現するようにしている。（中）</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の実施が目的となっており、事後の指導までを視野に入れた<u>計画的な活動になっていないものもある</u>。</li> </ul>
三 八	現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人に役割や責任をもたせ、<u>事前に目標やスローガンを作ったり、事後に振り返り</u>をさせたりしている。</li> <li>・<u>校種間連携や地域との関連</u>を図った取組を進めている学校もみられる。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が主体的に考えて実践できるよう、<u>各行事の教育的価値やねらいを明確にし、全教師で共通理解</u>を図りながら、自主的、実践的な態度を育てる活動に取り組ませる必要がある。</li> </ul>
<p>〔特色ある事例〕 〔東青〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制服の良さを見つけるための全校私服の日の実施（青森市立西中）</li> <li>・中体連壮行式に地域の小学校が応援団として参加（青森市内中学校区）</li> <li>・義経マラソン（マラソン＋ボランティア清掃）（外ヶ浜町立三厩中）</li> <li>・小中・地域合同運動会（東郡）</li> <li>・松前街道ウォーク（全校遠足）（外ヶ浜町立蟹田小）</li> </ul>		

- ・小中合同合唱交流会（蓬田村立蓬田小・中）
- ・地域でのねぶた祭（外ヶ浜町立三厩中）
- ・津軽じょんから踊り（平内町立東小）
- ・修学旅行で荒馬を披露（今別町立今別中）

[西北]

- ・小中合同運動会及び学園祭（中泊町立小泊小・小泊中）

[下北]

- ・中学校区内の小学校と中学校が、体育祭や文化祭等の合同行事を実施（下北管内小・中学校）